

○中井委員長 次に、田中康夫君。

○田中(康)委員 歴史に類を見ない超少子・超高齢社会ニッポンは、過去の成功体験を乗り越え、その根底から発想を変え・選択を変え・仕組みを変えねばなりません。奥深い哲学と冷徹(れいてつ)な覚悟が、国家の指導者に求められています。

その責を負う菅直人さんは、一昨日の予算委員会で宣いました。「やるべき事をやるのが強いリーダーだ」。

これは、「首相の椅子にしがみついているだけではないか？」と質した、自由民主党の武部勤さんへの返答です。

「格好を付ければ強いリーダーだとは思わない」とも菅さんは付け加えました。

御説(おせつ)、ご尤も。が、「格好を付けずに、椅子にしがみつかずに、やるべき事」とは一体、何でしょう？

私は、本会議の代表質問、予算委員会の審議(しんぎ)・質疑(しつぎ)でも繰り返し、以下の3点を述べてきました。

1つ目は、「増税で景気浮揚した国家は、古今東西、何処にも存在せず！」
「増税よりも増収を齎すのが政治家の使命」。

が、菅さんは、政権交代時の国民への約束を踏みにじり、増税ありきで猪突猛進しています。

2つ目は、「関税自主権を放棄する TPP は、“羊の皮を被った狼＝トロイの木馬”。その前に、きめ細かい FTA、EPA の締結を各国と！」。が、昨日の中央公聴会では、内閣支持率同様に組合加入率が僅か 18%の労働組合：連合の公述人は、私の質問に対し、増税と TPP は是非とも実施すべし、と民主党との“一蓮托生”発言される始末です。

3つ目は、菅さんが豪語する「20年後も大丈夫」な社会保障改革。が、ニッポンの人口は、20年後には1700万人減の1億1千万人。年金制度の微調整では太刀打ち不可能。基本所得保証＝ベーシック・インカムを導入こそ抜本的解決策です。

ところで、「格好を付けずに、やるべき事をやる」という当たり前の話

を、国土交通大臣、沖縄担当大臣、外務大臣を歴任の前原誠司さんにも、お伺いせねばなりません。

日本航空、八ツ場ダム、尖閣沖逮捕、北方領土。貴方の判断ミスで、製造物責任法、即ち PL 法で貴方が指弾されるべき、国益を損ねる事態が、政権交代後の1年半、続出しています。

口先だけで成果が伴わねば、現場は混乱し、職員は疲弊し、国民も被害を被ります。

他の航空会社も新幹線も高速道路もフェリーも存在するのに、「JALの飛ばない日は作らない」などと情緒的な発言で、自浄作用なき一民間企業に巨額の税金投入した迷走。

八ツ場ダムの本体工事は未着工。ならば、周辺の道路整備は河川局予算でなく、本来の道路局予算へと大臣就任直後に組み替え、その上で、自民党の河野太郎さんも指摘する、基本高水流量という虚構の算定式を見直し、新しい治水のあり方を提示すべきでした。

尖閣沖逮捕と北方領土の、居丈高な物言いと、腰砕けな迷走は、既に予算委員会場で質してきた所です。

さらに、昨日発生ニュージーランドでの地震の被害者のご家族を、政府専用機で伴にお送りすると豪語されましたが、残念ながら先程外務省幹部は、邦人の家族搭乗は過積載になる恐れがあり難しいと言明する始末であります。

私は、政治の、ニッポンの閉塞状況を打破して欲しい、と願う全国津々浦々の真っ当な国民は今、世代（せだい）交代だの、さわやかだのと、上っ面（うわつつら）の指導者ではなく、奥深い哲学と冷徹な覚悟を併せ持った、成熟したマチュアドな政治家＝ステーツマンを求めていると考えますが、前原さんにお伺いします。

○中井委員長 前原外務大臣。

1分弱しかありません。（はい、と国務大臣合の手）

○前原国務大臣 JALの再建については、わたくしは、いろいろと田中委員は仰っていますけれども、判断は間違っていなかった、そして今は上

手くいつている、そして上手くいかせなければいけない、そう思っています。

八ツ場ダムにつきましては、私は1年国交大臣をやらせていただきましたけれども、引き続きやらせていただければ、必ずこれについては結論を得て、私は、これは田中さんと同じだと思いますけれども、今の全ての洪水をコンクリートの構造物に押し込めて海まで流すという発想を、根本的に変えるということの、哲学を変える公共事業の考え方については、これも間違っていないし、やり遂げなければならないと思っております。

北方領土の問題につきましては、わたくしは政治家になったきっかけがこの問題であるということで、自分のライフワークとして取り組んでいきたいという決意は全く変わっておりません。

いずれに致しましても、田中委員がおっしゃる、政治家の言葉は重いということについては、私も同じ認識で御座いますので、そういった思いを共有しながら努力していきたいと考えております。

○中井委員長 これにて田中君の質疑は終了致しました。